

社説

獨逸の膠州灣占領

獨逸軍艦が膠州灣を占領し、六百の水兵を上陸せしめて支那の守備兵を驅逐し、國旗を灣頭に翻したりとの電報は其だ突然にして其理由を知るに苦しみたりしが昨日本社に達したる特電に據れば、山東省にて宣教師の殺害は單に一時の爲めに非ずして自から目的の存する舉動は單に一時の爲めに非ずして自から目的の存するものあるに似たり。先頃來獨逸が廈門附近の金門港らしくは三ツ寺の地を得んとして支那政府に對して頻りに談判を試みつゝあるよしは上海特派員の通信にも屢々見えたる所にして、南方福建の海岸に於て海軍の根據地をトせんとするの志あるは明白の事實なり左れば今回の舉動は廈門附近借地の談判とかく捲きながら、からざるより宣教師殺害の出来事を機会に取り敢へず、膠州灣を占領して支那政府に迫り以て兼ての目的を達せんとするには非ざる。ヨーロッパ電報に據れば、獨逸の新聞紙は海軍根據地として膠州灣の永久占領を勧告し居れども、膠州灣は既に諸國の借受けたる所にして、實際同國の海軍根據地として經營しつゝありと云へば、獨逸が今更に永久占領とは疑なきを得ざるのみが、同國の目論南方に在るは先頃來の運動に徴するも甚だ明白にして、遂に其方針を變ず可きにも非ざれば、今回その占領は殺害事件に乗じて目的を成すの機會を獲取したるものにして、目的は自から他に存するものと推測せざるを得ざるに於けるに足る可し抑も日清戦争の結局に當り、彼の三國同盟の力を以て、遼東半島を支那に還附せしめたるは東洋平和の維持云々の理由に外ならざれども、其事實は明に支那に利益を與へたるのみならず、報酬として何か求むる所のものなきを得ず。當時より豫想したる所なりしに果して然り、諸國は其後間もなく遼東半島の如き實際には、恰も其手中に歸したるの姿を成したる其方に佛國は安南地方の境界を擴張して、専く南支那島の割奪は他國との比に非ざれば斯る場合に決して厭視するものに非ず。從來の條約施行を主張して、獨逸の方面より内地に進み又廣東近傍の西江を開かしめたるが如き何れも戰爭後の出來事にして、列國れの獨逸先頭來開港附近の地を得んとして大に運動しつゝ支那に對して得る所おる此場合に當時三國同盟の要所には、實は該獨逸の根據地を造りたるの姿なきに非ず。其根拠地は、自國の利益を保護する目的の要所には、實は該獨逸の根據地を造りたるの姿なきに外なる所を指すものであつて、内改もされば甚だ不始末にして無理である。

彼等の放恣に一任して外國人に對し亂暴を働くなど、毎度の事なれば宣教師殺害の如き事件の屢々發生するもの、支那の守備兵を驅逐し、國旗を湾頭に翻したりとの電報の利害に影響する可きが故に、一發の事件忽ち導火線と爲舉動は單に一時の爲めに非ずして自から目的の存するものあるに似たり。先頃來獨逸が廈門附近の金門港らしくは三ツ寺の地を得んとして支那政府に對して頻りに談判を試みつゝあるよしは上海特派員の通信にも屢々見えたる所にして、南方福建の海岸に於て海軍の根據地をトせんとするの志あるは明白の事實なり。左れば今回の舉動は廈門附近借地の談判とかく捲きながら、からざるより宣教師殺害の出来事を機会に取り敢へず、膠州湾を占領して支那政府に迫り以て兼ての目的を達せんとするには非ざる。ヨーロッパ電報に據れば、獨逸の新聞紙は海軍根據地として膠州湾の永久占領を勧告し居れども、膠州湾は既に諸國の借受けたる所にして、實際同國の海軍根據地として經營しつゝありと云へば、獨逸が今更に永久占領とは疑なきを得ざるのみが、同國の目論南方に在るは先頃來の運動に徴するも甚だ明白にして、遂に其方針を變ず可きにも非ざれば、今回その占領は殺害事件に乗じて目的を成すの機會を獲取したるものにして、目的は自から他に存するものと推測せざるを得ざるに於けるに足る可し抑も日清戦争の結局に當り、彼の三國同盟の力を以て、遼東半島を支那に還附せしめたるは東洋平和の維持云々の理由に外ならざれども、其事實は明に支那に利益を與へたるのみならず、報酬として何か求むる所のものなきを得ず。當時より豫想したる所なりしに果して然り、諸國は其後間もなく遼東半島の如き實際には、恰も其手中に歸したるの姿を成したる其方に佛國は安南地方の境界を擴張して、専く南支那島の割奪は他國との比に非ざれば斯る場合に決して厭視するものに非ず。從來の條約施行を主張して、獨逸の方面より内地に進み又廣東近傍の西江を開かしめたるが如き何れも戰爭後の出來事にして、列國れの獨逸先頭來開港附近の地を得んとして大に運動しつゝ支那に對して得る所おる此場合に當時三國同盟の要所には、實は該獨逸の根據地を造りたるの姿なきに非ず。其根拠地は、自國の利益を保護する目的の要所には、實は該獨逸の根據地を造りたるの姿なきに外なる所を指すものであつて、内改もされば甚だ不始末にして無理である。

電報

(時事新報特受ロイアル電報)

○ 埃國皇帝と三國同盟

(倫敦十一月十八日發)

埃國皇帝は埃匈聯合會議會接見の當時甚だ懇意の演説を以て、其三國同盟を固守する所存なる旨確言し且つ、埃國と諸國との間には親密なる關係の存するふとを確めり、唯土耳其との紛議(前號參觀)には一言も説き及ばざりき。

○ 英國北ポル子才會社

(同上)

リッチャード・ペー・マーテン氏は英國北ポル子才會社の例年會食の席に於て、議長として若し當國に何等の援助マット・サッレーの義に關して不平なるに於りとの意を述べたり。

○ 印度境界戰報

(同上)

ケムブスター將軍の旅團はメーダンへの歸途に於て、陣營近くに敵の猛烈なる攻撃を受け、ダーレット大尉の枝隊は暗黒裏に遮断され、ヘルス中尉、ブルック中尉、兵卒九人之に死せり。此時シーカス隊は後衛にありて勇猛に敵兵を擊退したが爲めに、アーン中尉、アボット大佐を失ひ、マン中尉、カスタンス大尉亦負傷せり。其他兵卒の死せるもの十二人、負傷者二十五人あり、カーラス隊に於ても、ソイリー中尉敵に殺されたり。

○ 高野孟矩氏一行の歡迎會

(大阪十一月十九日午後特報)

當地の有志者は、昨日午後三時より曾根崎村幹事會に於て、高野孟矩氏一行の歓迎會を開き、高野孟矩氏一行の歓迎會を開いた。來會者は五百名餘に達し、幹事會地附二氏開會の趣意を述べ、高野孟矩氏一行の歓迎會を開いた。

○ 高野孟矩氏一行の歡迎會

(大阪十一月十九日午後特報)

河田兩氏の演説あり、次に前川謹造氏は高野氏の非職問題に關し、政府は遠慮の處置を爲したるもののない四五年の演説ありて、十時頃散會せり。高野氏の一行は加藤、河田、戸口、竹内四判官長谷川書記等にて來會者一同は、前川氏の所説に同意を表し夫れど、高野氏主張の説を贊助せられたしとの意見を述べたり。

○ 獨逸軍艦の出發

膠州灣を占領したる獨逸軍艦は、三隻にして、その何艦かは未だ確知べからざれども、本月十日發行の支那報紙により、松山の地震を行へり。